



健やか豆知識

第26回

**Q. 生後2ヵ月から予防接種が
開始できるのは、
次のどのワクチンでしょうか？**

- I** 麻疹・風疹混合 (MR) **II** インフルエンザ **III** ヒブ (インフルエンザ菌b型)



子どもの感染症予防の基本は予防接種です。

最近、コロナ禍によって子どもを予防接種に連れて行くことや、医療機関を受診することに不安を感じているかもしれません。赤ちゃんは母親からもらった免疫によって、多くの細菌やウイルスなどの感染から守られていますが、成長するにつれその免疫が薄れていくと感染症にかかりやすくなります。予防接種は、その免疫が薄れてくる時期、病気にかかりやすい年齢や重症化しやすい年齢を考慮して感染症ごとに接種年齢を定めて実施しています。

特に生後2ヵ月から予防接種が受けられるヒブ(インフルエンザ菌b型)や肺炎球菌、B型肝炎、ロタウイルスは、乳児がかかりやすい感染症で、これらの予防接種をおこたると感染後に重症化したり、後遺症が残ったりする危険性があります。中でもヒブ(インフルエンザ菌b型)は冬場に流行するインフルエンザウイルスとはまったく違う病原体で、細菌性髄膜炎、喉頭蓋炎、菌血症など乳幼児の命にかかわる感染症の原因となります。

しかし、これまでの経験からワクチンの有効性・安全性が確認され、予防接種の普及により、かつて多くの幼い命を奪ってきたこれらの恐ろしい感染症から子どもたちが守られるようになりました。そして、予防接種は自らが病気にかかりにくくなるだけでなく、社会全体で流行を防ぐ効果もあるため、乳児期からの接種がすすめられています。乳児期に受けるべき予防接種は数が多いですが、一番必要な時に受けられるよう、市区町村がお知らせをしています。

お近くのクリニックやかかりつけ医では、病気の子どもの接触がないよう配慮している施設も多くありますので密になることを避けることができます。手指消毒や咳エチケットなどの感染対策を心がけ、予防接種の時期を遅らせることなく受けましょう。

監修 **中野 貴司**

川崎医科大学総合医療センター
小児科教授

< ③ 埼玉 >

さらに詳しい情報は
ホームページで!



高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を願って —
高田製薬株式会社